

科目区分	専門基礎分野	科目名	公衆衛生学	対象学生	第3学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第1学期
担当講師	非常勤講師				
科目目標	公衆衛生の概念と包括的保健医療福祉の考え方および基本的な内容を理解させる。 すなわち、この講義においては、多要因から成る健康の成り立ちを生活レベルから理解し、人々の健康生活の保持増進や疾病の予防、医療・福祉のために考え、行動することができるように、考え方や知識を習得する。				
授業概要	<p>第1回 公衆衛生(学)の定義、公衆衛生の倫理、健康の概念、健康(病気)の成り立ち (講義)</p> <p>第2回 疫学、疫学的因果関係の推定、疫学的考え方、アプローチ、多要因疾病観、臨床疫学とエビデンス (講義)</p> <p>第3回 人口・保健統計、健康水準の測定、疫学指標(出生率、死亡率etc) (講義)</p> <p>第4回 保健行政、組織、国・地方自治体、保健所、地域保健法、衛生法規 (講義)</p> <p>第5回 保健医療制度、地域保健医療計画、保健医療と福祉・社会保障 (講義)</p> <p>第6回 母子保健、主な施策、現状、問題点とその要因、学校保健 (講義)</p> <p>第7回 成人保健、生活習慣病(がんetc)、現状と動向、予防と対策 (講義)</p> <p>第8回 高齢者保健、高齢化社会、高齢者問題、高齢者福祉、介護保険 (講義)</p> <p>第9回 感染症・予防対策、食品衛生、食中毒の予防、国民栄養、精神保健 (講義)</p> <p>第10回 保健習慣、一次・二次・三次予防(ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ)、包括的保健医療福祉 (講義)</p> <p>第11回 産業保健、働く環境と健康(作業環境管理)、労働基準法、労働安全衛生法 (講義)</p> <p>第12回 職業病とその予防、作業関連疾患、健康管理、健康づくり(THP)ワーク・ライフ・バランス (講義)</p> <p>第13回 環境保健、人間-環境系、生態系、大気(空気)、水、住居、バリアフリー、廃棄物 (講義)</p> <p>第14回 化学物質と健康、環境基本法、公害と健康被害の補償、地球環境問題 (講義)</p> <p>第15回 終了試験</p>				
看護師国家試験出題基準	<p>公衆衛生の領域、活動、健康の概念に基づく公衆衛生、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、健康被害と母集団、疫学的因果関係の推定、臨床疫学とエビデンス、国勢調査、人口動態、出生、死亡、死因、死産、周産期死亡、乳児死亡、平均余命、平均寿命、健康寿命、受療状況、有病率、罹患率、地域保健法と施策、健康日本21、健康増進法、母子保健法と施策、母体保護法、精神保健医療福祉の施策、精神障害者(児)の医療と福祉、心の健康対策、自殺対策、発達障害に関する医療と福祉、学校保健安全法、健康診断、健康相談、がん対策基本法難病の患者に対する医療等に関する法律、医療保険制度、介護保険制度、日本の高齢者保健に関する法制度と施策感染症の成立要因、感染症の流行、感染症の予防、予防接種、食品安全確保対策、食品衛生管理制度、食中毒の予防、家庭用品の管理安全対策、主な生活習慣病の現状、健康教育と早期発見、特定健康診査、特定保健指導、労働安全衛生法、職業病の予防、トータル・ヘルスプロモーション地球温暖化、オゾン層の破壊、アスベスト、放射性物質、水質汚染、大気汚染、土壌汚染、一般廃棄物と産業廃棄物、バリアフリー、室内環境と健康問題、地球温暖化対策の推進に関する法律</p>				
授業の進め方	テキストおよび配布したプリントによる講義				
履修のポイント・留意事項	公衆衛生学は極めて包括的、学際的かつ集学的な学問体系であるため、関連した諸科学の学習が重要である。また、公衆衛生学には医学・医療の社会的適用という側面があるため、日頃から総合性、社会性、現実性、即時性を養うよう心がけることが望まれる。				
テキスト	わかりやすい公衆衛生学(ヌーヴェルヒロカワ)				
評価方法・配点	授業に取り組む姿勢・小テスト(20%)、終了試験(80%)				